

母の愛情

お母さんの料理は、
やっぱり世界で一番だ！



母から娘へ

少食だった私。赤ちゃんの頃から食が細く母は心配のあまり食事中は怖い顔になりいつしか私にとって苦痛の食卓となっていた。ある時、困った母を見た祖母は「あなたもそうだった。大丈夫よ。栄養よりも大切なことがあるはずよ。」そう優しく話した。今、私は少食の娘と笑顔で食卓を囲んでいる。おばあちゃんもお母さんも、私に幸せな食卓を教えてください。ありがとうございます。



母への肉じゃが

コロナ禍のため、ずっとできなかった調理実習で肉じゃがを学んだ。母はフルタイムで働いており、毎日忙しくバタバタしている。仕事から帰ったら急ピッチで夕食作りに取りかかる。そんな母のために学んだ肉じゃがを作ったが、人参もじゃが芋も固く、味付けも薄くおいしくなかった。それでも母は、「おいしい」とおかわりをしてくれた。当たり前のように毎日おいしい食事を用意してくれる母に、感謝の気持ちを忘れないようにしたい。



母の想い

「まぐた、こんなに沢山…」天ぶらを揚げる母と私のいつものやりとり。「あなたの好きな物、揚げるとこんなになっちゃう。」大葉、いんげん、さつまいもなどどれも私の好きなものばかり。文句を言いつつ美味しいので平らげてしまう私を見て、「ほら、食べれるでしょ。」とどこか自慢げで嬉しそうだった母。思い出すと涙がこぼれる。私も娘に思い出してもらえる親でありたい。

母のパワー弁当

私は母のお弁当を持って大学に通っている。大学に入り、手作りのお弁当を食べる学生は少数派。学食もあるけど、やっぱり母の作ってくれるお弁当が私のパワーフード。高校生のとき、受験で大変だったときもどんなときも私に力を与えてくれたと実感する。母の気持ちがお弁当を通じて私を応援してくれるからかな。いつか母のようにパワー弁当を作れるようになりたいと思いつつ、もう少しだけ母に甘えていたい。お母さん、いつもありがとうございます。



※写真はイメージです。



第8回 フィール 食卓の ありがとう!

“おいしい”と感じる食卓には
共に過ごした“あなた”への
“感謝の想い”が溢れています。

2023年度 優秀作品発表!

2023年秋に食卓にまつわる“感謝の気持ち”のエッセイを募集したところ、本当にたくさんのご応募を頂き、誠にありがとうございました。ご応募いただいた方の中から10名様「優秀作品」を発表。「グッドフィーリング」特別号としてお届けします。

“FEEL”という店名には、感謝、感動、感激、感性など、いろんな「感」が込められています。



本仕込食パン(各種)

このエッセイ募集キャンペーンは、フジパン様のご協賛により実施致しております。

家族の 想い

大切なひとへつくる料理は、
愛で溢れています。



父の「ありがとう」

私の父は寡黙だ。ザッと和の男とでも言おうか。そんな父から、突然の電話。「お母さんの誕生日になにかしたい」と。私は、手料理を作って、日頃の感謝を伝えたらと提案。父はそれを実践し、顔を真っ赤にし、「いつもありがとう」と伝えたそう。母は笑いながらも泣いていたそう。言葉には重さがあると良く言ったもので、父の「ありがとう」というたった一言が、母の心の器に入った時、一気に感情となって溢れてしまったのだろう。



悩める妻が救われた瞬間

日々の献立に頭を悩ます妻の「今日の夕飯何が食べたい？」と言う言葉に僕や2人の息子が返す言葉は決まって「何でもいいよ」であるから不満げだ。ある日、2年前に巣立った長男が帰省する際に僕と妻が外食でも行こうかと勧めると「母さんが作った餃子が食べたい」とポツリ……。自分の食べたい料理を伝えた事に驚いたと同時にその言葉を聞いた妻の満足げな表情が今も忘れられない。



父の味

よく母の味、と言うけれど我が家の場合は父の味です。私が小学生の頃、入院していた母が家に帰ってきました。大喜びしていると、母は10冊以上のノートを父に渡し、子供達にちゃんと食べさせてね。と言って病院へ戻っていきま



した。そのノートには私達の好きなメニューのレシピがぎっしりと書かれていました。お母さん、お父さん約束守ったよ。ノートとにらめっこして頑張ってくれたよ。私、高校生になったよ。私の父の味は母の味。

第8回

食卓の ファイル ありがとう!

娘との食事

「今日のお昼ご飯、何？」朝食を食べ終わったばかりなのに、小学生の娘が放つこのセリフ。ああ、夏休みが来たなあ、と私が最も実感する一言だ。三食用意するのは面倒だが、そうも言っていられない。麺類に頼りがちな簡単な昼食で



も「美味しいー」と喜んで食べてくれると、やはり嬉しいものだ。新学期が始まり、一人で昨日の残り物を食べる昼食は少し寂しい。一緒に食事ができる有り難さを改めて教えてくれた娘と夏休みに感謝だ。

2023年度

優秀作品発表!

家族で皿洗い

「ごちそうさまでした。さあ、やるか!」我が家では、家族5人みんなが夕食にそろった日は、最後の皿洗いをサイコロ勝負で決める。「お母さんはいいよ。」と始めてくれたのだが、見ていて何だかとても楽しそうだったので、私も自ら参加を申し出るようになった。誰が勝っても負けても、自然とみんな笑みがこぼれ、ささやかな幸せを感じる。敗者には今日も、「ありがとう。お願ひします。」の感謝の言葉が贈られる。

あと何年なんだろう

我が家には、小学五年生と年長の兄弟がいます。毎日当たり前のように一緒に食事をしているけれど、子供の成長を感じるたびに「あと何年一緒にこの食事を囲めるのだろう。」と寂しくなる時があります。日々の生活に追われ、怒ってばかりの自分を反省し、今のこの幸せな時間を大切にしていきたいです。一緒に食事をしてくれてありがとう! 家族の会話の場、食卓を大切にしたいです。



わが子と 共に

一緒にの食卓、一緒にのご飯は、
ずっと心の中に。



Cooking



※写真はイメージです。